

## 【一般部門】大賞

### 『しあわせの青いクリスマスツリー』

作：三輪 円香 選考と作画：古瀬 稔

#### ストーリー

青い小鳥のアズは、超高層マンションの38階の巣でうまれた末っ子。クリスマスイブ、地面に降りて迷子になったアズに、マンションよりも高い電波塔が声をかける。電波塔の願いを聞いたアズは、塔のてっぺんで歌う決心をする。懸命に電波塔を登り続けるアズ。てっぺんで歌い出すと青い鳥の仲間たちが飛んでくる。いっしょに電波塔の周りで歌う。

#### 解説

世界情勢は複雑にからみあい、社会に不穏な分断を生んでいます。文化や価値観の違いを互いに認め、共生していく意識を持たなければなりません。ネットからの偏った情報に惑わされず、事実を見極めて理解していく努力が必要です。そこから他者への思いやりや寄り添う行動が生まれます。

この作品の主人公は、末っ子で何をしていても遅れをとっている青い小鳥のアズです。自信が持てないアズは電波塔から「青い鳥は幸せを運ぶ」と言われます。「クリスマスに幸せを運ぶツリーになりたい」と願う電波塔のために、アズは電波塔のてっぺんで歌う決心をします。アズの自己肯定感と誰かのためという思いが、行動を起こす勇気となったのです。地上から少しずつ懸命にのぼっていき、てっぺんにたどり着いて歌うアズのところへ、兄や青い鳥の仲間たちもやってきます。電波塔の周りを飛びながらアズと共に歌います。青い鳥たちのあたたかな羽に包まれ、美しいコバルトブルーに輝く電波塔。人々は閉ざした窓を開き、アズたちの歌声と電波塔のすがたに見とれます。「誰かのために」と行動する勇気が、周囲へ共感をよび、つながっていく……。クリスマスイブのラストシーンが心に残る物語です。

#### 受賞者プロフィール

三輪 円香 (みわ まどか)

[千葉県]

「タワーマンションに囲まれた保育園に勤めていた時「子どもたちはどんなクリスマスを過ごすのだろう」と思ったのが、お話のきっかけです。一人ひとりのあたり前の幸せ——特別な生活でなくてもいい、平和で穏やかな幸せ、それを青い鳥に託してお話を作りました。今後も、泣いたり笑ったり、日常の細やかな感情をていねいに書いていきたいです。」

## 【こども部門】大賞

### 『ねこたつや』

作：松澤 美空 選考と作画：いりやま さとし

#### ストーリー

「ねこたつや」は冬眠できなかった森の動物が、いっしょに冬ごもりする1室だけのホテルで、あるじは猫のキャッツさん。あったかいこたつにはヤマネ、あまがえる、シマリスがいて、ツバメもやってくる。キャッツさんはみんなとクリスマスの準備をする。雪が積もった日、ツメで編んだ毛糸の帽子やマフラーをもらったみんなは、喜んで森を走る。

#### 解説

“ねこたつや”は冬が訪れる前にオープンするホテルで、あるじは猫のキャッツさん。部屋はひとつだけで、あったかい大きなコタツが置いてあります。“ねこたつや”には、いろいろな理由で冬眠できない動物たちがいます。冬眠に間に合わなかったヤマネ、冬眠を忘れていたアマガエル、巣に戻れなかったシマリス……みんないっしょに冬ごもりするのです。部屋には「〈森のわくわく〉わすれるべからず！」と、謎めいた貼り紙があります。

雪が積もった日、雪におどろく動物たちを、キャッツさんは外に連れ出します。キャッツさんからプレゼントされた、手編みの帽子やマフラーを身につけて森を走ります。冬眠すると体験できない、冬ならではの楽しさを味わわせてくれるのです。

〈森のわくわく〉って何でしょう。森からの贈りもの？ 自然の贈りもの？ それとも……あれこれと想像してみる楽しさがあります。話しかけるような文章表現がユニークです。ぜひ音読してほしいお話です。

#### 受賞者プロフィール

松澤 美空 (まつざわ みく)

[熊本県 10才]

「大好きな猫とこたつを結びつけた『ねこたつや』という言葉を見つけました。このタイトルで猫が主人公の物語を書こうと思いました。“人と動物の共存”をテーマに“冬眠できない動物たち”の物語に決めました。ふれあいを通して助け合い、思い合う気持ちの尊さを伝えたいです。夢は童話作家アンデルセンのような、絵本作家になることです。」

## 【一般部門】優秀賞

---

---

### 『時計屋ハック』

---

---

作:さえき みこ 選考と作画:稲葉 朋子

---

#### プロフィール

---

〔兵庫県〕

「“時間”をテーマにした作品を考えました。子どもの健康に関わる仕事をしていたので、規則正しい生活が、身体や心に影響することを伝える場面も入れたいと思いました。他者と交流したり、尊重したり、力を合わせて達成するなかで、ハッピーを見つけるストーリーを考えました。生きにくい時代の「子どもたちを応援する物語」を書いてみたいです。」

---

#### ストーリー

---

時計屋のハックの所へ猫とツバメが訪ねてくる。猫とツバメは「時計台の時計の針の速度がおかしい」「時間にはんろうされて、町の人たちの様子も変になった」という。修理を頼まれたハックは町へ行く。故障の原因は子ネズミたちのしわざだった。穴に落ちた部品を拾い上げる方法を考えたハックは、猫や子ネズミたちと力を合わせて時計をなおす。

## 【一般部門】優秀賞

---

---

### 『窓辺のふたり』

---

---

作:七実 薫 (ななみ かおる) 選考と作画:田上 千晶

---

#### プロフィール

---

〔兵庫県〕

「通勤の途中で、かわいい飾り窓を見つけました。その窓についての物語のあらすじが、会社に着くまでに出来あがりました。子どもの頃、優しさや夢、冒険や勇気も大好きな本が教えてくれました。いつか、読者に何かを届けることができたらと思っています。毎日の暮らしの中に、ほんの少し魔法が混じる、そんなお話を書いていきたいです。」

---

#### ストーリー

---

アンティーク店の飾り窓に置かれた「ぬいぐるみの猫のリリイ」と「焼き物の猫のぶち」。何かと口げんかをしてしまう。ある日、お客さんがリリイを乱暴に扱い、ぶちにもたれかかる格好になる。ふたりは気まずい雰囲気です。リリイはぶちから思いがけないことを言われ、お互いのことを見直す。翌日、店主はふたりが寄り添うように飾る。

## 【一般部門】優秀賞

---

---

### 『ココロノオト』

---

---

作:藤谷 いくえ (ふじたに いくえ) 選考と作画:高杉 千明

---

#### プロフィール

---

〔山口県〕

「実家にある祖母のアンティークミシンと、祖母との思い出を形に残したいと思いました。また私は、将来に悩む高校生と接する機会がよくあります。不安になって、揺れている若者の背中を押すような作品を作りたいと思いました。創作活動を通して自分の考えを整理したり、自身を振り返ったり、新たな自分を発見したりすることができます。」

---

#### ストーリー

---

就職活動で疲れた恭子さん。亡き祖母のミシンを見ていると、ぬいぐるみのひよこが現れる。ひよこの服を繕ってあげると、こぶたのぬいぐるみも現れる。服にレースをつけてほしいこぶたは、ミシンを使うことをすすめる。夢中でミシンを使ううち、幼い頃の祖母との楽しい思い出がよみがえる。進路で悩んでいた恭さんは、やりたいことに気づく。